

長岡造形大学
大学院造形研究科修士課程

入学試験過去問題集
(2019 年度)

2019 年度 長岡造形大学大学院（修士課程）前期入学試験問題

問 題

以下の文章を読んで、条件に従い問 1、問 2 に答えなさい。

2010 年代の現代美術を批評的な観点から要約するとすれば、それは「民俗学的転回」と言えるのではないか。現代美術が長らく抑圧してきた民俗性が現代美術の現場に回帰しているように思われるからだ。

現代美術はそもそも都市文化のなかから生まれた。戦後の日本社会が急速に都市化していくなかで、全国各地に建設された美術館はコンセプチュアル・アートを収蔵した反面、各地の風土や伝統を徹底して排除した。民俗学が学問的な対象とした各種の生活様式は現代美術から等しく遠ざけられたのである。

しかし芸術祭の隆盛に見られるように、私たちがいま現代美術に求めているのは、まさしくそのような民俗性である。それぞれの風土を色濃く反映した祭りや伝統。それらを主題とした作品というより、むしろそれらと出会うための道標として作品を見ているところがある。そのような民俗性に飢えているからこそ、あれほどおびただしい数の人々が都市から地域の芸術祭に足を延ばしているのだろう。

さらにアーティストの視線も民俗性に回帰している。神話や民話、あるいは口頭伝承を作品の着想の源とするアーティストが昨今急激に増加しているだけではない。決定的なのが「リサーチ」の一般化である。作品を制作する前に、現地の風俗や歴史を調べ、住民に聞き取り調査を行うアーティストは非常に多い。まるで民俗学者のような身ぶりが作品を制作するうえで不可欠な工程として認識されるようになったのである。

現代美術の重心は、造形的に洗練された美しさやコンセプトの切れ味を問うものから、各地の土着的な民俗文化を求めるものへ、劇的に変容してしまったのではないか。2010 年代に生じたそのような構造変化を「民俗学的転回」と呼びたい。

福住廉（2017）「民俗学的転回」、『美術手帖』 vol. 69, NO. 1062, p. 29, 美術出版社。

問 1

ここで言われる「民俗学者のようなりサーチ」であるエスノグラフィーは、本来研究対象地域に住む人びとの行動を観察する研究手法を意味していましたが、現在ではそれにとどまらず、検討するテーマに関わって人の行動を詳細に観察することで問題やニーズを発見する「デザイン思考」のプロセスとしても取り入れられています。あなたの研究課題に即してそのような「民俗学者のようなりサーチ」をするとすれば、具体的にどのようなことをするか、800 字程度で述べなさい。

左記のようリサーチをするアーティストの例として挙げられているのが鴻池朋子である。

以下の鴻池の文章を読んで問いに答えなさい。

仕事を続けてきた中で、アートやアーティストというものに特権的なものを付帯させようとする人々が多くいることも知ったし、また芸術という閉じられた場所でのみ通用する考えや言語があることも知ったが、たとえどんな場所にしようとも、自分は自由とか自己表現とかという根拠のない言葉にうっとりして作品を作っては絶対にならないと思っていた。それは絵を描くということが、純粹であるものと同様に、一方で多分に危うくて、うさん臭いものなどと常に隣り合わせで成り立っているということを身をもって知っているからである。それゆえどこまでも歯止めの効かないことが起こりやすいし、また自堕落な方向へと落ちてゆくことも辞さないのだ。

特に震災以降は、自分から出てくるものさえもすべて怪しいと思えていたし、何事に対しても自分に徹底的に責任を負わせないと気がすまないような焦燥感もあった。しまいには外食で食べるものすべてが柔らかすぎると感じて、噛み切れないほどの固いものは何処かにないかと飢えてさえいた。新たな表現をするためには、決定的な勉強不足を感じていたのだ。想像力に打ち勝って作品を表出させる蓄えがない自分に苛立っていた。

そうやって気合だけで空回りばかりしている自分をまずは落ち着かせてやろうと、私は東京を離れ東北へ旅立った。震災の年の11月、秋田から展覧会企画の依頼があったのでそこへ脚を伸ばした。芸術という行為を始めると、必然的に自分が立っている場所を学んでゆくことになるのだが、特に移動をしていると自分の今居る場所の地形や歴史を意識し始める。細長い日本列島は、南北に延びる形と中央を縦走する山脈とによって風土が変わるということを実感できる。そこに住む人々の自然観も言語も、場所によって当然変わり、表現されるものも違ってくるとというのが自然に体でわかってくる。

鴻池朋子 (2016) 『どうぶつのことば—根源的暴力をこえて』, pp. 307-308, 羽鳥書店.

問2

上の文章を受けて、自らが生まれ育った場所、住んでいる場所、研究のフィールドとしている場所などを念頭に置きながら、自らの研究課題と場所がどのように関連しているのか800字程度で論じなさい。

条件

- ① 問1、問2はそれぞれ別の解答用紙に記述すること。
- ② 問1、問2それぞれの解答用紙の左上の所定の場所に解答する設問の番号（1または2）を記入してから解答すること。

2019 年度 長岡造形大学大学院（修士課程）後期入学試験問題

問 題

苦手なものを好きなものに変える方法を提案しなさい。

人には必ず苦手なものがあり、その内容や理由は様々である。自身の制作や研究テーマと関連づけながら、下記の間1から間3に従って上記課題について提案しなさい。

- 問1 苦手なものを一つ選び、自身の知り得る情報やこれまでの体験などをもとに、その理由や背景について 400 字程度で記述しなさい。
- 問2 苦手なものを好きなものに変える方法について、問1で述べた具体例とその理由や背景を関連付けながら自身の制作や研究分野の視点から 800 字程度で説明しなさい。
- 問3 問1と問2で記述した情報を整理し、それらの内容を視覚的にわかりやすいように表現しなさい。(表現方法は、ポンチ絵、概念図、イラスト、ストーリーボード、漫画など、自由とする。)